

【質問1】 ヘチ釣りでのナイロン糸とPEラインの違い

関東を発祥の地とするヘチ釣りは、もともと道糸はナイロンの2号前後を使用していたようです。

PEラインを主として使うようになったのは、ここ10年ぐらいのことかと思われます。

PEラインを使うかナイロン糸を使うかの判断は、その釣り方によってほぼ決まってきます。

先調子の和竿で細ハリスを使い、エサも比較的柔らかいものを使う時は、柔軟性のあるナイロン糸を使う方がバラシのリスクも含めて、理にかなっているようです。

これにこだわっている関東のヘチ釣り名人は数多く存在します。私は和竿天明を使うことが多いのですが、この竿は胴調子（天明調子）なのでPEライン1.5号～2.0号、ハリスはやや太めの1.7号を中心に使用します。

PEラインを使っても、ハリス1.0号でも胴に乗せて50cmクラスのチヌを取り込むことも慣れれば可能になります。

一方でここ数年、目印釣りが中心であった関西でも多くのヘチ釣り師が誕生しました。

仕掛けがシンプルなこと、障害物周りも目印がなく竿さばきも容易であること、釣り味がダイレクトに伝わることなどがあげられますが、なんと言ってもあらゆるタナの釣りが可能であることが、その大きな要因でしょう。

一昔前は、落とし込みといえは4月に始まり、10月に終盤を迎える2ヒロぐらいを中心とした釣りでしたが、温暖化やパイプというエサの発見もあり、1年中落とし込み釣りが可能になりました。

場所にもよりますが、気温の低い時期は深ダナ（3ヒロ～底）が中心となります。場合によっては8～9ヒロといった深さまで探っていくこともあります。

PEラインはこういったときにはかなり有利になると思います。

私は深ダナのときはPE1.5号を使用しています。ナイロン糸はPEラインに比べ、糸ぐせや張りという点でやや不利になります。ヘチ釣り独特の手元にでるアタリをとるのも、PEラインのほうが有利かと思われます。

一方で強風時の糸がらみや穂先のからみはPEラインが不利になりますが、アタリをダイレクトにとるという観点からはPEラインに分があると言えるでしょう。

ナイロン糸の特徴である柔軟性を意識した釣り方（細ハリスを使用する、喰い込みを良くする）をする時は、利用する価値はあると思っています。

【質問2】 ヘチ釣りのアタリのとり方

ヘチ釣りでのアタリのとり方はタナ釣りの場合、糸フケの変化を読み取ることその基本とします。

場所や状況によっても変化しますが、ガンダマのB-3Bを基準に2ヒロ半ぐらいまでのタナを探っていきます。

エサによるアタリの出方は、そんなに違いはありませんが、アワセのタイミングの違いは、喰いの状況とエサによって変わってきます。

喰いが悪かったり、柔らかいエサを使うときは竿に乗せるように遅アワセすることが釣果を上げることもあります。

が、あくまでもタナでのアワセの基本は即アワセです。

さてアタリのとり方ですが、ヘチ釣りの場合その落とし方を誤るとアタリがあっても道糸の変化を読み取ることが出来ません。

落とし方の基本は、張らず、緩めず風をはらませながら常に一定の張りを感じながら落としていくことです。

潮流や風がきついときはオモリで調整したり、風上に竿先を持って行って道糸に張りを作っていくことが肝要です。

足場の高い堤防の場合は3m以上のヘチ竿を使うことも良いと思います。必要以上の糸フケはアタリのシグナルをぼかしてしまいます。

落とし込みで一番重要なことは、いかにしてチヌにエサを喰わせるかということです。落とす場所・エサ・落とし方が適正でないとチヌは喰ってきませんから、当然アタリも出ないこととなります。そうしてチヌが喰ってきたときのアタリは、大別してストップアタリと引き込みアタリに区分されますが、厳密にいうと全く同じアタリ方というのはほとんどありません。

完全なストップアタリ以外は、かなり微妙な変化をともなうものが多いのです。

当日のアタリのパターンはある程度一定にできることも多いのですが、それでも止まったり、微妙に引き込んだりと変化することが多いと思います。

一般的に時合いや、荒れたときはアタリが大きくなる場合がありますが潮も流れず、風もないときはアタリも小さくなりがちです。

チヌのアタリを確実に読み取るにはどうすればいいのかというと、数多く落とし込んで何かおかしいと思ったときは積極的にアワセていくことしかありません。

大きなアワセは必要ありませんので軽くきくか、エサの送り込みを止めて手元、道糸、竿先に神経を集中しましょう。

落とし込んでいるとチヌが喰ってくる時よりも喰わないときの方が圧倒的に多くなります。アタリを識別してチヌを釣るには、アタリのない時の道糸の状況を体で感じられるようにするのです。

逆に言うとアタリのない時の道糸の変化以外はすべてアタリだと思うことです。

余分な糸フケを出さず、数多く落とし込むことで、チヌの喰いアタリは必ず分かるようになります。

やがてイガいの層で止まったアタリと、チヌが喰って止まったアタリの区別も見分けられるようになるでしょう。